

私の半生

才能教育研究会会長

鈴木 裕子 ①

音楽一家の父



吉である。父は9人きようだいの大家族で育った。祖母の良はおとなしく、まさに良妻賢母の典型だった。

父はその鈴木鎮一の弟で、鈴木喜久雄といつた。祖父は名古屋の「鈴木ウァイオリン」の創設者である鈴木政



10カ月のころ、大森の家で父と

奏して回っていたが、太平洋戦争の最中、チエロを弾いていた二三雄が焼夷(しょうい)弾を受けて亡くなり、カールテットの演奏活動はできなくなつた。伯父の鎮一は東京の帝国音楽学校を設立し、国立音楽院などで教え、さらに自宅でも小さな子どもたちにバイオリンを教えるようになった。その中に江藤俊哉さんや豊田耕児さんもいた。祖父政吉の創業した「鈴木ウァイオリン」は長男梅雄が継ぎ、6男だった父(題字・大澤逸山)は東京の銀座で楽器店を開き、大田区大森に

鈴木鎮一の弟 共に演奏活動

「鈴木ウァイオリン産業株式会社」というバイオリンの製作会社を立ち上げていた。母の静子は、横浜の貿易商の娘でフェリス女学院を卒業後、東京音楽学校でピアノを習っていた。伯父の鎮一が教鞭(べん)をとっていたこともあり、静子を弟の喜久雄に紹介し結婚が決まった。その両親のもとに私は長女として1940(昭和15)年11月に誕生した。両親には、なかなか子どもが恵まれないので、ようやく授かったのが私だったという。父が36歳、母が30歳だった。当時は父の会社も隆盛を極め、自宅の応接間には名器ストラディバリウスが飾ってあったという。が、残念なことに東京大空襲で焼失してしまった。

聞き書き・佐藤文子(俳人)

展作家

全国を演